



令和3年度横浜市社会福祉・ 保健医療功労者市長表彰の受賞にあたって

医療法人社団のう救会 脳神経外科東横浜病院 院長

岩本 哲明

この度は、令和3年度横浜市社会福祉・保健医療功労者市長表彰を賜り、誠に光栄に存じます。関係各部署の方々へ感謝を申し上げます。

私は、2013年6月より脳神経外科東横浜病院院長職を郭水泳理事長より拝任致し、日々の業務を淡々とこなしておりましたが、病床数60の脳神経外科単科病院で、長年脳疾患の救急の受け入れを積極的に行っていたことをご評価頂いたと推察致します。

当然ですが、職員の支えがあって続けられたことであり、この表彰は、私個人ではなく病院として頂いたものと考えます。患者さんやご家族の笑顔にやり甲斐や元気を頂いていますが、怒濤のごとく押し寄せる臨床現場で、黙々と業務を遂行してくれた全職員へ感謝します。

近年の脳卒中と循環器病の克服に対する国の方針のもと、これまで後手の治療しか出来ていなかった脳梗塞に対する血栓回収術の普及もありますが、ここ数年手術件数や救急搬送件数は増加し、忙しさも一段と増しております。コロナ禍での救急隊の方々の御苦労は想像に難くありませんが、より良い救急医療を市民へ提供できるよう、お互いに切磋琢磨出来ればと存じます。

また、脳神経外科単科病院の宿命ではありますが、緊急性の高い他科疾患の発生時は、総合病院へ加療をお願いしたり、療養やリハビリテーション目的での転院や近隣のクリニックの先生方には引き続きの通院をお願いしており、地域の繋がりがなしには診療の継続は困難で、受け入れて頂いた医療機関へ感謝を申し上げます。

さて、数年後には新病院開院の予定ですが、働き方改革の波が医師にも押し寄せて来ます。これまで勤勉・実直な医師に恵まれ、幸いでしたが、今後は善意だけではやっていけません。職場の環境整備は必須ではありますが、頭を悩ます問題で、少しずつ改善点を見つけ、作業効率を向上させ、職員の満足度を増すよう努力しなければと考えます。

コロナ流行後、院内でコロナ感染者の発生なく過ごせておりましたが、この原稿を作成中、クラスターが起きました。救急の受け入れを少しでも早く再開するため、早期収束を図っておりますが、オミクロン株流行下で想定していたものの、対応が中々大変です。いずれにしろ、横浜市の1病院として、今後も地域医療に貢献する所存ですので、よろしくお願い致します。